

市民による意見交換会・懇談会2018 記録 (Ⅰ会場全体・Ⅱグループごと)

日時 : 2018年7月29日(日) 13時半～16時半
場所 : 印西市中央駅前地域交流館1号館 2階 会議室1・2

参加者数 76人
司会:村松
記録:宇寿山

13区市民連合代表挨拶 (元山)

皆様こんにちは、台風の影響が残りお忙しいなか参加いただき感謝します。また千葉13区市民連合の活動にご理解有難うございます。思想党派の違いを尊重しながら、立憲野党の力で安倍政権に代わる政権を作るために、手伝いに止まらずともに闘うものが市民連合です。忌憚りの無い意見交換を通して共通認識と想いを共にしたいと考えます。

通常国会終わったが、白を黒と言いくるめ力づくで政府の考えを押し付けるようとしています。経済はそこそこで、「もりかけ」の問題も安倍政権の支持率にはそれほど関係ない状況です。真摯な議論、政治への関心も失わない、多様な生き方を容認する世界を守らなければなりません。息苦しさを感じたら既に窒息しているかもしれない。これは朝日新聞の音読そのままでお伝えしました。

東アジアでの平和の兆しが見えています。ますます奮闘がんばりましょう。政党議員の皆様参加有難うございます。

○ 国会議員及び政党 挨拶 -----

宮川伸 衆議院議員 (立憲民主党)

皆様こんにちは。昨日の被害災害どうなるかと心配でした。西日本の被害大きくならなければいいと思います。国会は終了しましたが、これからどうやっていこうか議論できたら良いと思います。

自由党 (平野貞夫 元参院議員)

こんにちは。4月15日山口さんの講演後、6月4日にも山口さんと意見を交換したが、山口さんは野党協力の現状を憂えていた。7月20日の国会は最悪だった。長年議員をやってきたがあれほど程ひどいものは無い。独裁政治だ。それに対して野党はまとまっていない。野党が国会開会直後から党首会談を開いて、内閣不信任ではなく政権そのものを止めるべきだった。立憲民主党と国民民主党がまとまらな

い。党首会談で方針を決めなかったことが間違いだった。トランプ大統領と金主席の合意、変人どうしだから失敗すると思っただけではない。東アジア平和の動きぜひ市民連合でも運動し後押しして欲しい。憲法の秩序を破壊した第二次安倍内閣を調べた。まさに内乱といっても良いものだ。挙句の果ては公文書の改ざん。安倍麻生に責任を取らせなければ。市民連合の奮起を求める。

日本共産党（川副邦明 千葉県委員会副委員長）

こんにちは。日本共産党県千葉県委員会副委員長 川副です。国会の評価は前の二人と一緒に。野党にも責任はあるが、丁寧に説明をしないといいながら何もしない安倍政権が最も悪い。野党共闘の活動の成果として、合同ヒヤリング100回以上行い、政府は裁量労働制を引っ込めざるを得ない結果になった。9条改憲のスケジュールを思い通りにさせなかった。自衛隊明記の9条加憲でやろうとしたが思惑通りにはいかなかった。憲法改定を諦めさせるまで3000万人署名などで取り組み安倍政権を打倒し新しい政権を作ろう。千葉県でも市川市長選挙で野党統一候補が初めて当選した。労働組合の協力など色々と共闘が進んだ結果だ。

市民ネットワーク千葉県 からのメッセージ（司会代読）

13区市民連合に結集されている皆さん。市民の地域政党「市民ネットワーク千葉県」です。昨年の総選挙では宮川伸さんの応援をいたしました。

通常国会が十分な議論もなされず、与党の数の力で押し切られる形で閉幕しました。安倍首相は早くも総裁3選をにらんで「改憲」への意欲をちらつかせています。権力の私物化以外の何物でもありません。

こうした閉塞した政治状況を切り開くためにも、野党と市民の連帯が不可欠です。来年の参院選にむけて、市民連合の役割はますます重要となっています。

私たち市民ネットワークもその一翼を全力で担うこととお約束します。

本日の集まりの盛況と実り多きことを祈念してご挨拶いたします。

どうぞよろしくお願いいたします。

市民ネットワーク千葉県 政策調査室:吉沢弘志

* 当日欠席だったが、次の方々にも「意見交換会・懇談会」の案内を出し参加依頼をした・・・

社会民主党・国民民主党(長浜議員)・無所属の会及び千葉民主連合(野田議員)・日本共産党(志位議員)
・無所属の会(田嶋議員)・千葉民主連合(小西議員)・緑の党・新社会党

○ 千葉県議会議員 藤代政夫議員 お名前紹介 -----

* 当日欠席だったが、次の県議の方々にも「意見交換会・懇談会」の案内を出し参加依頼をした・・・

野田剛彦議員・丸山慎一議員・大崎雄介議員・岩井泰憲議員・中田学議員・加藤英雄議員

意見交換Ⅰ（会場全体） -----

1. 選挙結果・世論調査をどのように分析しているのか？（新潟知事選・落ちきらない内閣支持率）

宮川(立憲):きわめて厳しい状況にある。あまりにも数が少なすぎて、相当にやられている。安倍三選もあり更に厳しい。厳しい状況を共有し今後どうするのか考えたい。

平野(自由):新潟知事選挙では野党協力随分がんばった。自民公明はそれ以上にたちが悪かった。公正な選挙を行うとの倫理観すらなかった。世論調査のやり方は当てにならないと思っている。実質の支持率は20%と考えている。無回答は反安倍と思う。世論調査に答えることすらいやだと思っている。

川副(共産):新潟知事選は現職の辞職のなかで4万票差まで追い詰めた。郡部では勝っていたが新潟市で負けた。自民党は市内企業への締め付けを総力を挙げてやったのが現状だ。争点隠しの新聞広告を3日間打たれたが、野党共闘候補の側は1日だけしか広告できなかった。選挙法を無視した選挙もやられた。このような中でも勝てる状況を作らなければならないと思う。

世論調査については、マスコミを使って森加計問題などをどんどん忘れさせる報道をしている。そういう状況で、結果だけを見て一喜一憂してもしょうがないと考えている。

2. どのような政治をつくろうとしているのか。有権者に届く一言で。

宮川(立憲):立憲民主党は立憲主義に基いた政治を、多様性を認め助け合う世界を作る。

平野(自由):「現代の理論」へ投稿したが、保守側では9条への意見が対立しているのではないか。自民党は憲法改訂は党是といっているがそれはうそだ。「平和と友好自主独立」「安定した福祉国家」が自民党の綱領だ。改憲についてはもめて国民の総意が納得いくまで待つとしていた。今のような自民党方針は安倍政権だけだ。自民党結党時の綱領は市民連合と一緒にした。

川副(共産):文書改ざん、セクハラ、と色々やっているが、嘘をついている。西日本災害で警戒警報が出ている中で5日の宴会後、翌日も官邸に総裁選のために集まっている。嘘をつかない、人の命を大事にする政治、今の憲法を政治に生かすことが大事と思っている。個人を大事にし8時間働いたら生活できる社会を作る。

3. 各党の政策は？ 経済政策は？

宮川(立憲):政策は多岐にわたっている。全部は説明できないが、経済政策が選挙の勝敗を分けている。何とか3分で説明できるように努力しているが、基本的にトリクルダウンでは生活は成り立たない。日本の幸福度は低すぎる。先輩世代では貯金を皆持っている、なぜならば将来への不安が原因だ。介護一つをとっても介護士さんすら足りない。生活保護基準の引き下げが行われている。不安があり貯金せざるを得ない。介護離職社会の土台が崩れそうになっている。そこにてこを入れない。所得の再分配をしっかりとする根底から変える政策を考えている。

今国会で原発ゼロ法案に力を入れた。日米原子力協定が改訂されたが、47トンのプルトニウム原爆6000発分を、経産省はフルサーマルMOXで対応しようとしている。あと14機以上再稼働させると年間10トンのプルトニウム消費となり問題ないとしてる。東海第二の再稼働もその一環だ。政府はやる気満々だ。すごい力で動いている。

平野(自由):戦争と核兵器と原発をやめ命と暮らしを守る。これで全てを含んでいる。細かな理屈はいらない。7月17日にテレビ番組「消費税導入の真実」に出演した。消費税導入時には弱いものを守るはずだったが、法人税減税に使われている。消費税で社会保障は破綻している。富裕層への増税が一番だ。プルトニウムを無害化できる研究技術を政府は認めようとしな。選挙に勝てば社会を変えられる。

川副(共産):消費税10%が予定されてるが、今でも大変なのに国民生活が破綻することにつながるのは確実だ。トヨタ自動車(株)の内部留保20兆円、毎日1000億円使っても縄文時代からの今日まで時間がかかるような膨大な額だ。労働者にきちんと還元し、賃金まわせば経済は回る。沖縄に辺野古新基地をなんで作るのか、朝鮮半島の平和の動きに対して反するような政策は止めるべきだ。自衛隊は今秋オスプレー5機導入する。佐賀空港は軍事利用できないとの協定があるなかで、暫定的配置で木更津に持って来ようとしている。オーバーホールすら部品不足で整備すらなかなか出来ないような危険な航空機はもって来るべきではない。こうした防衛費をやめて福祉に回すべきだ。

4. 野党共闘をどのようにつくろうとしているのか？

宮川(立憲):千葉県では良好な関係となっている。国民民主に対して市民連合はどのようなスタンスを取るのか。小泉進次郎の動き、野党連合の動きなどがある。立憲民主党は支持率が少し下がってきているが維持している。今のところ踏ん張っている。何故下がらないのか。色々な意見を聞きながら慎重に立ち位置を決めている。

平野(自由):7月の初め松山で地方議員の研修会があった。理屈ではなく戦争と原発をなくし生活と命を守るで話をしてきた。神奈川では国民民主、立憲民主がトラブルを起している。地域的な違いが大きい。千葉県は良い雰囲気だ。有権者をどう説得し納得させるかにかかっている。現在、立憲とは立ち位置は変わらない。国民民主党と共産党の関係が悪い。気楽に政治活動できる雰囲気をつくろう。

川副(共産):全国的な問題と地域的な問題がある。野党共闘で当選した市川市長が赤旗に投稿で、一回目の選挙では民主党時代のやり方を押し付けたため上手くそれぞれの力が発揮できなかった。再選挙では共産党も選対に入ってもらいお互いにリスペクトとして成功した。野党の共闘が安倍政権の最大の脅

威だ。本気の共闘をすること、妨害的な共闘を壊す動きは、市民との連携で押しとどめることが大事だ。共闘の力を強めていけば次回の参議院選挙でも勝てる。

5. 白須賀議員に対しどう勝利するか？

宮川(立憲):安倍政権をなんとしても倒すの思いで立候補した。白須賀議員との3万票の得票差は大きい。私が総選挙で勝てる可能性は低い。完全に野党共闘ができていれば勝っていた。斉藤さんの協力だけでは勝てなかった。水野さん希望の党のような候補が出れば負ける。富里で負けた。そういった地域では保守が強いがそのような保守層をどう崩していくのが問題だ。皆様の意見助力をお願いしたい。

平野(自由):国債の問題すなわちアベノミクスの失敗が出てきている。実生活のなかでの自民党の対応は尋常ではない。法律にかからない補助金などを組織的にやっている。自民の支持層で中小企業を具体的に補助している。そこを明らかにしていく必要がある。そこをつぶそう。

川副(共産):本気の共闘をしなければ勝てない。相互推薦と共闘を事前にどうしていくのか。自民の企業への取り組みは尋常ではない。通常国会で20本共同提案をしている。この政策をどう訴えていくのが大切だ。13区では北総線以外にどのようなテーマを出してくのか。宣伝を含めて考えていかなければならない。たとえば災害的とも言われている今年の暑さのなかで、エアコンの小学校への設置は取り上げるべき課題。身近な政策をとりあげていこう。

6. 市民の役割をどのように考えているか？

宮川(立憲):草の根の政治で立憲パートナーズの方針を出している。安倍政権を倒すには市民の力が無ければ出来ない。何をやってもだめな状況を打開するのは市民しかない。一緒にやっぺいこう

平野(自由):野党の数が少ないのが現実だ。野党がまとまって行かなければだめだ。バラバラに議論していたらだめだ。一つの党としてまとめればよい。

川副(共産):2015年の戦争法問題のとき、市民が大きな声をあげ野党共闘が取り組まれた。日本共産党はこの市民の声に応える形で取り組んできた。国民の望んでいることを示すのが野党の力だ。日本の政治を変える原動力が市民だと思っている。

○ 会場からの質疑と応答

- ・ 私の父は共産党員だった。警察官になろうとしたが出来なかった。いまでも変わっていないのか。

川副(共産):警察のマニュアルには共産党に関係する事件はいち早く取り上げろとされている。こんなことがそもそも間違いで、許されない。変えていくべきだ。

- ・ (この会への)政党の参加が少ない。無所属だが鎌ヶ谷選出国会議員藤代さんの意見を聞きたい。

藤代県議:市民連合結成から市民連合に入っている。戦争法に取り組んだ頃と市民と野党の共闘と変わってきている。市民がどのような国を作るのかそのためにはどうするのか、市民連合が各政党に行動を要求する。そのような関係の中で市民連合を作って行きたい。

- ・ (私は)市民連合政策委員会責任者をしている。本日3部の資料を皆様提供している。自民党は何故支持されるのか。支持者に安倍経済は素晴らしいと言わせるような政策を出している。北総線運賃が高く沿線の街の疲弊が始まっている。

- ・ 東洋経済の「住み易さ」のトップに印西市が上げている。世論調査では? 選挙に行かない人をどうやって掘り起こすのか。

宮川(立憲):今回の参加は三党しかいないことについては、社民を含めて出て欲しかった。野党共闘

では各党理念を大事にしなければならない。理念を曲げない中で野党共闘をどうするのか真剣に悩んでいる。

裾野を広げる、若者向けにどうやってアピールするのか。支持者の若者を中心に検討している。「政治ってカッコいいね」のイメージをどう作るのか検討している。創価学会はギャンブル反対のはず。そのような方々とも取り組む必要がある。

平野(自由):若い人達がわかるような説明する努力が必要だ。理念は理屈だ。問題は政治とはなにか。政治とは弱い人をどう助けるかが昔からの考えだ。政治の根っこを若い人に呼びかけ伝えよう。個人を重視すれば全体が弱くなるが、みんなが一緒に共生しなければ社会はさらに悪くなる。

川副(共産):政治に関心を持たない人をどうひきつけるか、民主党政権が発足したときは多くの有権者が投票した。鳩山さんは首相になったとき沖縄の人を裏切った。そうしたこともあって、そのあとの国政選挙でおよそ2000万人の人が投票していない。政治が変われば生活が変わることを知らせていきたい。日本共産党の創立96周年記念講演会で志位委員長が財界人の意見を紹介して「人を大事にしない会社はだめになる」とのべた。社会があってこそ企業の存在があるということだ。選挙に行かない人にたいして、私たちのつながりのある人に関心のある政策を伝えることだと思う。みんなが声をあげて、政治を変えようと訴え続けることが大事だと思う。

○希望の党が出来て野党は分断された。分断は権力者の常套手段。そんな中で分断されるのを避けるには理念を固め断固理念を守りまとめることが必要だ。仲間を信頼し勢いが無ければできない。足し算ではだめだ。まとめる人がまとまれば勝てる。

・ 運営委員のメンバーだが国民民主党にも声をかけた。日程が取れなく欠席との返事だった。各政党に声をかけたが欠席が多かった。若い人に選挙に行って欲しいが、生活があり投票にすらいけないのが現状ではないか。税金税制を調べたが消費税について輸出企業には6兆円も還付している。所得税は年収1億を超えると税率が下がる。消費税・法人税をどう考えているのか

宮川(立憲):消費税は今あげるべきではないとの方針だが、福祉の財源をどうするのか慎重に検討している。金融資産税・所得税では福祉充実には不足しているとの立場だ。

川副(共産): 消費税は下げるべきの立場、国民の消費をどう増やすのか、企業の内部留保を労働者に回す。福祉への一定の負担は必要だが消費税は要らない。

- ・ 消費税はゼロでいいとのテレビ(番組)があった。国民の総資産と累積債務差し引きゼロで必要ない。各党で検討をお願いします。

宮川(立憲): 高齢化により社会保障費は膨れていく。慎重な対応がされるべきだ。

平野(自由): 消費税0を含め税負担の根本から検討しなおす必要がある。当初の消費税の構想から大きく変わってきている。地域地域の特徴に合わせた税制政治であるべきだ。

川副(共産): 日本の債務を含めて考えると労働者の賃金を上げなくてはならない。最低賃金を上げる、そうすると中小企業が成り立たないとされるがアメリカでは補助金で対応している。社会福祉を含めた提案をしている。

- ・ アメリカの若者は銃規制キャンペーンをやっていた。市民活動に野党はどうついてくるのか。政策を市民連合として決める。何を目標とするのか。民主主義の旗振りの先頭に立って欲しい。

宮川(立憲): 皆様の思いを国会で反映していく。意見を出して欲しい。

平野(自由): これからの維新は反政党政治、維新といっても維新の党の話ではない。市民を中心にした政治政党活動が必要だ。

川副(共産): 戦争法ができ憲法が壊されている。安倍政権を一刻も早く打倒しなければならない。来年の参議院選挙に向けて取り組む。

意見交換Ⅱ（会場を5グループに分け、議員政党代表と自由な意見交換）

○ Aグループからの発表

1. 自由党平野さんからの情報として、

原発を廃止できない理由は、炉で核燃料を燃やしたことで発生するゴミやプルトニウムについて各電力会社は資産として計上しており、18兆円にも上っている。

やめればその資産は「ゼロ」になり各社大赤字となり社会問題になるからだ。

2. 討論の結果次のような提案がありました。

市民連合に力をつけ、影響力を増すために賛同人を増やさなければならない。「3000万人署名」の取り組みにならない、戸別訪問をすべきだ。

○ Bグループからの発表

1. 統一候補が実現しなかった点

13区は現職の共産党・斉藤和子さんが立候補されていたが、立憲民主が候補者を立てた。

現職を通すことが大事なのに、どうしてこのようになってしまったのか、その経緯を知りたい。

もやもや感が残ったままである。

2. 県議会選挙

県議会選挙は印西市は2議席になる

2議席自民党に独占させないために、活動をすべきだ。

3. 自民党議員の活動について

白須賀議員など自民党の議員の普段の活動について、余り知らない。

色々問題のあることをしているので、広めるべきだ

4. 最低賃金

最低賃金のアップをすると、中小企業が苦しくなる。

そのため、社会保険料の企業負担分について助成をするなどの対応と一緒に提案しないと、賛同を得られない。

※共産党は、きちんと中小企業の負担を減らす政策も一緒に主張しているとの、共産党・川副さんによる反論あり。

5. 北総線の運賃

北総線の運賃が高い(ので値下げを)という活動をしていたことは知らなかった。

京成の社員は、偽りの週休二日制であり、また給与も減っている。

京成の労組の役員は会社側の人が多いので、組合が会社側につくことが多いが、反対の人も少なくない。

北総線の運賃の話しを、労組の総会で訴えることで、中と外と連携して変えることが出来るのではないかと。

6. 政党との関係

共産党を排除して進めようとする人がいる一方、共産党を崇拝してしまう人もいる。

また、立憲民主党は理念ということを行っている。

どの政党の主張が正しいかではなく、今の政治を変えるという点で一致すべきである。

7. 小泉純一郎

小沢一郎と仲違いしていたのは、自分(自由党・平野さん)が原因。しかし、もうわだかまりはない。

原発は本気で勉強している。

参議院選で応援してくれるかはわからない。

○ Cグループからの発表

千葉13区市民連合の「目標(政策)を立てたら良いか」について話し合いました。

・北総線の料金引き下げ

・小中学校のエアコン設置

(白井市は学校にエアコンが設置されていない。国が補助金を出して地方に負担をかけないでほしい。)

・消費税増税反対

・災害支援に力を入れて取り組む

・子育て、介護、教育など福祉の充実

・福祉で働く職員の確保、賃金の引き上げ

・最低賃金の引き上げ

・原発ゼロ、再稼働中止

(原発を止めるには、政治が決断すればできる。電気は足りている)

・憲法に則った政治をしてほしい

・安保法制をやめさせる

・カジノ法撤廃

・辺野古基地建設中止

などの意見が出されました。

今回のような議論ができる場を持ってほしい。という要望も出されました。

○ Dグループからの発表

① 選挙はとても大切だが、投票したいと思えるような候補者がいなければ元も子もない。そこで、もっと市民が主体的になって、「この人に自分たちの代表者になって欲しい」と思えるような信用できる政治家候補を選ぶようにできないか。

② そのためには、多くの市民が結束して、市民連合の発言力や影響力を強めていく必要がある。もちろん、政党が選んだ候補者が信用に足る人物であれば、市民が結束して応援する。

③ また、市民連合が力をつけるには、政治に無関心とされる若い層の人々に訴えていく必要がある。そのためには、若い人々の目を引きつけるだけのインパクトのある政策を提示した方がよい。たとえば、消費税を廃止にするというような。

○ Eグループからの発表

- ・理念も大切だが、まず13区の政策、目標をつくるべきだ。理念だけでは闘えない。
- ・経済政策が必要だ。
- ・次の選挙は参議員選挙だが、これの対応をどう考えているのか。
- ・13区市民連合が候補者を立てたり、推薦したりするべきなのでは。
- ・消費税は食料費などは軽減を考えるべきではないかと思うが、政党や市民連合はどう考えているのか。

これに関しては、平野さんから「3%導入時に政府でも1年間話し合ったが大蔵省が難色を示した。」という

説明があった。

- ・憲法がもっとも気にかかる問題だ。
- ・印西市は住みやすい町といわれているが、それは北総線沿線や町の中心部に限られる。周辺部の実態はそうではない。
- ・若い人から

「参加している人が怒っていることはわかったが、自分にはそのような感覚はない。問題それぞれに関心がないわけではないが、優先順位をつけるということもない。参加者がどんなことを考えているかは知りたかったし、自分もいろいろな問題を考えていきたいと思う。だから参加した。」

13区市民連合代表閉会挨拶（佐藤）-----

こんなに多くの人々が来るとは思わなかった。市民連合としては大きな励みになる。また議員政党代表3

人と会場が集中して議論が出来たと思う。安倍政治はひどすぎる。野党は確かに少な過ぎるが一致しなければならない。野党と市民が一致して行動し生命と生活の向上を求めていこう。

以上

(参加人数 76人 カンパ総額20560円)